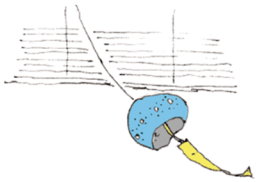
～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼーよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
（共同・協働）と
～しようよの組合せ

第69号
2024・夏



誰もが活躍できるまち
三木

少子化時代～若者に選ばれる企業になるには～
『ジェンダーレンズ』で何が見える？
誰もが住みやすい地域をつくるには
令和６年度みきウィメンズすてっぷあっぷ塾の紹介

少子化時代～若者に選ばれる企業になるには～

厚生労働省の発表によると、2023年の年間出生数は72万7277人と、過去最少記録を8年連続で更新中だとか。2016年に初めて出生数が100万人を割り込んでから、たった7年で2割以上の落ち込みがあったことになります。

少子化は加速しており、今後ますます労働力人口が減少していくことが予想されることから「人材を募集しても人が集まらない」といった状況がさらに深刻化する恐れがあります。定年延長の導入など、企業もさまざまな方針を打ち出していますが、将来的な労働力を確保するためには、「若者に選ばれる企業」になるための施策が喫緊の課題ではないでしょうか。

就職先を決める際、企業に対する「安定性」や「成長性」を求める意見もありますが、昨今、若者は「ワークライフバランス」を重視しており、育児休業が取得しやすく、本人や家族の病気、親の介護などにも対応できる「誰もが働きやすい職場」を求める傾向があるようです。

誰もが働きやすい職場として、「くるみん」や「えるぼし」などに認定されている企業に注目している若者たちがいるそうですが、皆さんはこれらの制度をご存じでしょうか。

「くるみん」は、「子育てサポート企業」として一定の認定基準を満たした企業に与えられます。

「くるみん」「えるぼし」の認定マーク

一方、「えるぼし」とは、女性活躍推進法に基づいて、女性の活躍を推進している企業が取得できます。どちらも厚生労働大臣から与えられる認定で、人材の確保や定着のほか、社員のモチベーションの向上などが期待できる制度です。大企業だけではなく中小企業の認定取得も多く、若者が就職先を決める際の基準の一つにもなっているそうです。

近年は男性も「育休の取りやすさ」を気にしていることから、女性だけではなく、男性も注目している制度なのです。

また、兵庫県独自の制度として、「ミモザ企業（ひょうご・こうべ女性活躍推進企業）認定制度」といわれるものもあります。これは県内企業の女性活躍を促進するため 、「企業の取組姿勢」「キャリア形成支援」「女性の登用促進」「女性の定着促進」などから認定される制度です。「くるみん」や「えるぼし」に比べて認定が取得しやすく、県内の入札参加資格で加点対象になるなど企業にとってのメリットもあり、三木市にも「ミモザ企業」に認定された企業があります。

こういった認定を取得することで、厳しい少子化時代であっても「こんな企業に就職したい！」と、若者に選ばれる企業になる可能性があるのではないでしょうか。これらの認定は、女性だけではなく従業員すべてが働きやすい職場環境につながる取組で、企業イメージや従業員の満足度を上げることにもつながります。三木市の企業（管理部門）も、ぜひこれらの認定の取得にチャレンジしてほしいです。　　（編集委員：O）

「ジェンダーレンズで何が見える？」

「ジェンダーレンズ」という言葉を聞いたことがありますか？

「ジェンダーレンズ」とは、性別の違いによって生まれている、日常生活(政治・経済・教育他)における不当な格差や差別をなくすため、ジェンダーを意識したレンズを通して見ようという考え方です。皆さんは、ふとジェンダーの不平等を身近に感じることがないでしょうか？

先日、家族が結婚をしました。婚姻届けの提出にあたり、職場での名前をどうするか等々、生活に関するあらゆる手続きに翻弄されていました。戸籍を変える際に、ふと疑問が生じたようです。特にこだわりがなかったのですが、お互いにとって良い方法は何か、人生の先輩方に相談したようです。その中で、「一般的に男性の姓を名乗ることが多いようですが、現在はどちらでも良いと思います。」というような曖昧な答えに、後味の悪い感覚が残ったようです。

日本では結婚すると、夫の姓か妻の姓のどちらかを選ぶことができます。しかし、明治時代の名残で、今でも結婚すると大半の妻が夫の姓を名乗っており＊、なんとなくそれが当たり前な風潮になっています。

ジェンダーの視点を持ち合わせていないと、平等に選択肢が与えられない、または、与えられていても、気づかないことが多いのではないでしょうか。しかもこの不平等に気づく視点は急に養えることではありません。なぜなら、子どもの頃からどのような教育を受け、どのような環境で育ってきたかが影響するからです。

しかし、日々些細なことでも「ジェンダーレンズ」を通して見るようにすることにより、ジェンダーの視点を養うことは可能です。それは今後の個々の人生に大きく影響し、公正平等な社会の実現につながるのではないでしょうか。

今日からあなたもジェンダーレンズを意識してみませんか？

（編集委員：Ｔ）

＊厚生労働省「人口動態統計」2022年調査では夫の姓を選んだ夫婦は全体の95%です。

今後の男女共同参画センター主催の講座　※ 要:事前申込

テーマ	講　　師	日　　時	会　場
持続可能なまちづくり ～誰もが住んで良かったと思えるまちに～	中村　和子さん	8月9日（金） 10:00～11:30	自由が丘公民館
家庭の防災 みんなの不安と対策を教えて 不安なことって何でしょう？	松尾　やよいさん	8月18日（日） 13:00～15:00	市民活動センター 中会議室
人生100年時代 多様化する自治会のあり方	小川　真知子さん	8月29日（木） 13:30～15:00	志染町公民館
人生100年時代 多様化する自治会のあり方	小川　真知子さん	10月9日（水） 10:00～11:30	口吉川町公民館
男女に学ぼう防災	斉藤　容子さん	10月10（木） 10:00～11:30	細川町公民館
三木市の防災 「私たちの町は大丈夫？」	三木市危機管理課職員	10月27（日） 13:00～15:00	緑が丘町公民館

「誰もが住みやすい地域をつくるには」

私たちの暮らす地域には男性、女性、赤ちゃんからお年寄り、健康な人や病気の人、障がいのある人、障がいのない人、家族を介護している人、介護されている人などなど、さまざまな人が暮らしています。

さまざまな人々が暮らす地域で誰もが住みやすくなるためには、何が必要でしょう？地域が安全なこと、普段の暮らしだけでなく災害に対しても安心なこと、生活に必要な物が手に入ったり、困ったときに相談できる場所や相手があること・居ることに加えて、教育や医療、介護などのサービスが利用できることなどでしょうか。

私たちの地域の現状は暮らしている地域で少子高齢化が進んでいる、働く女性が増えた、など地域に必要なことも変わっています。

これからも私たちの地域が誰もが住みやすい地域であり続けるには、地域で暮らす一人ひとりの意見を尊重することが必要になります。先ずはそのために普段の生活で男性と女性がお互いを尊重し協力し合える関係を作ることが第一歩です。次に地域で何か決め事をする「意思決定の場」に性別に関わらず多様な人が参加することで、さまざまな視点で問題を考えることができます。

私たちの地域が、誰もが暮らしやすく、誰もが活躍できるまちになると良いですね。

（編集委員：I）

防災 ✖ 女性
楽しく学ぶ！守る！地域を変える！

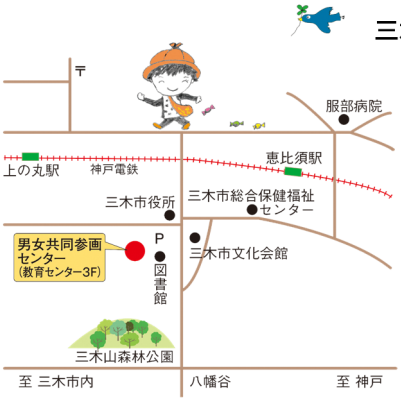
みきウィメンズすてっぷあっぷ塾　塾生募集！

いざ災害が起きたとき、女性や子どものニーズに気づくためには、女性の視点が不可欠です。平常時からさまざまなシミュレーションを通じて準備しておくことで、避難生活での困りごとをひとつでも減らすことができるかもしれません。

そこで、今年度の「みきウィメンズすてっぷあっぷ塾」※ は「女性の視点から考える防災」をテーマに開催します。講座では、家庭での備えを防災ビンゴで確認したり、実際に 100 円ショップを訪れて防災グッズを探したりと、楽しく学べる内容が満載です。さらには、年度末に学びの集大成となるフェスティバルの開催を予定しています。

この機会に「みきウィメンズすてっぷあっぷ塾」に参加し、楽しく学び、自分の家族、身近な友人、そして地域を守るために学びませんか？詳細は二次元コードからアクセスして確認してください。

※ みきウィメンズすてっぷあっぷ塾とは
「女性の可能性を広げる一歩を踏み出そう！」というコンセプトで開催する連続講座です。



三木市男女共同参画センター
愛称：こらぼーよ

三木市福井 1933-12　教育センター3 階
TEL：0794-89-2331　FAX：0794-82-8120
開館日時：月曜～金曜 9 時～17 時（祝日を除く）

ホームページからも
ご覧いただけます

こらぼーよ　三木市

企画・編集：情報誌こらぼーよ編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター

編集後記

近年、各地で大きな災害が多発しています。「遠くの親戚より、近くの他人」という言葉がありますが、有事にはまさにその言葉どおり、地域住民の「共助」がとても大切になります。個人主義、人材不足、さまざまな理由で自治会の運営がむずかしい時代ですが、普段からの「声掛け」「挨拶」など、ちょっとしたことが地域のつながりを強化し、有事への備えになり、活気のある地域社会づくりにも役立ちます。

（編集委員：G）